

1日も早い開院と地域の発展に貢献する 双葉地域の中核病院を実現するための

私たちは「双葉地域における中核的病院整備基本計画」を念頭におき、7つのコンセプトを掲げ、患者・スタッフ・運営者・地域の総合的視点から貴院の目指すビジョンを具現化し、早期開院→復興の進展→人口増加への流れを後押しする地域密着型病院を皆さまと共に実現します

7つのコンセプト

1 双葉地域の医療ニーズに応える 地域密着型病院

診療ブロック
(診療の業)
中央コア
外来プレート
機能連携UP

2 患者・スタッフの視点に立った やさしく魅力ある病院づくり

ワンフロア外来
スタッフ commons

3 あらゆる災害時にも機能する ノンストップホスピタル

1.人・建物を守る
2.ライフライン確保
3.傷病者の受入れ

4 円滑な意見集約+建物低層化により 全体工期を8ヶ月短縮

6F → 4F
2フロア減

5 段階的な拡充に柔軟に対応する コンバーチブル病棟

1病棟 ↔ 2病棟

6 省エネ化+フレキシブル化+LCC削減を図った サステナブルな施設計画

光 FLEXIBLE 風

7 賑わいと復興を後押しする コミュニティホスピタル

双葉地域の幅広い医療ニーズに応える信頼の地域密着型病院を「双葉型プラン」で実現します

1-1 (1) 質の高い医療を効率的に提供する施設に関する提案【土地利用計画】 敷地環境の特性を活かした合理的な土地利用計画

■ スムーズな車両動線と周辺環境との調和を両立した配置計画

- 車両アプローチ、駐車場、建物の向き、交流施設・公園との関係性など総合的に配置を比較検討
- 一般車両入口を南側に設け、交流施設駐車場入口を避けることで円滑な車両動線を確保し、交通渋滞を緩和

	A案	B案	C案
建物配置	職員サービス IC 救急 公園 新病院 交流施設 一般車両	職員サービス IC 救急 公園 新病院 交流施設 一般車両	職員サービス IC 救急 公園 新病院 交流施設 一般車両
① 車両アプローチ	○ アクセス性に優れた南側に一般車両出入口を確保	△ 一般車両出入口が交流施設の駐車場動線と交錯	△ 一般車両出入口が交流施設の駐車場動線と交錯
② 駐車場	○ 将来の西側駐車場と連携しやすい	△ 将来の西側駐車場と分離	△ 将来の西側駐車場と分離
③ 建物の向き	○ 東西面が少なく西日の影響小	△ 北向き玄関で北風の影響大	△ 東西面が多く西日の影響大
④ 町並みとの関係性	○ 広場が交流施設・公園とつながり賑わいを引き込む	△ 患者駐車場が交流施設の賑わいを分断	△ 患者駐車場が交流施設の賑わいを分断

■ 復興のシンボルとして地域に根ざした施設づくり

- 県立大野病院の配置を継承し、復興のシンボルとして、地域に根ざし、親しまれる施設を実現
- JR大野駅～交流施設～公園と新病院を「SAKURAテラス」で結び、人の流れ・賑わいを創出し、地域コミュニティの活性化に貢献

■ 公園への日照を確保

- 新病院を4階建てとし、建物高さを抑えた計画とし、北側の公園への日影の影響を抑制

■ 将来を見据えた配置計画

- 将来計画の駐車場との連携を視野に入れ、歩道を整備すると共に患者駐車場を南西寄りに配置

1-2 (1) 質の高い医療を効率的に提供する施設に関する提案【外部動線計画】 機能的で安全な外部動線計画

■ 安全かつ明快なアプローチ計画

- 一般・職員・サービス・救急の各車両動線を分離した安全なアプローチ
- 主玄関と時間外出入口が隣接した利用者にわかりやすい動線計画
- ゆとりあるメインロータリー
- バス・タクシーや患者の乗降に対応した十分なスペースを確保
- 雨に濡れずに乗降可能な庇付きの車寄せ・車いす駐車場を整備

■ 迅速な患者受入れが可能な救急入口

- 雨天時の搬送や重複する救急患者の受入れにも迅速に対応可能
- 救急・感染・時間外出入口を明確に分離し、安全でスムーズな運用を実現
- 効率的運用が可能なサービス入口
- ピロティを利用したサービスヤードは雨天時もスムーズに搬入可能
- サービス入口に搬送エレベータを隣接させ、円滑な搬入搬出を実現

1-3 (1) 質の高い医療を効率的に提供する施設に関する提案【施設構成】 機能性・効率性・利便性を最大化し、高質で手厚い医療を提供

■ 明快かつ機能的な建物構成

- 連携性を高めた3つのボリュームを中央コアで結び、質の高い医療を効率的に提供できる双葉型プラン
- 明快なフロア構成で連携強化
- フロアごとに関連部門を集約。水平連携に加え、垂直方向にも関連部門を結び、動線の短縮化を図り機能連携を強化

■ 動線分離を図り運用効率を向上

- 利用者とスタッフのエリア・動線を分離し、効率性・安全性を向上
- エレベータを用途別に分けて計画し、効率的な垂直移動を実現
- 迅速な救急医療「双葉ERライン」
- 救急EVで各フロアの関連部門を最短で結び、迅速な患者搬送を実現。救急EVは感染症患者や被ばく患者の搬送にも利用可能

1-4 (1) 質の高い医療を効率的に提供する施設に関する提案【スマートホスピタル】 スマートホスピタル化で「医療の質」・「働く環境」・「患者サービス」の向上を図る

■ スマートホスピタルへの備え

- DX化を見据え、デジタル技術等を活用できるよう、様々なインフラやハードを院内に整備
- 人とロボットが共生できる施設
- 案内・警備・搬送・清掃等のロボット化を視野に入れ、人とロボットが円滑に稼働できる施設計画

■ 「様々な居場所×スマート化」でどこでも気軽に待てる環境を整備

- スマートフォン呼出しシステム構築に備え、通信ネットワーク設備の拡張性を確保
- 大画面案内や大型サインをシステム連動し、円滑な患者誘導に貢献。サイン表示の更新性も容易

01

空気の流れ

給気 → 排気

給気	SS	廊下	病室	WC	排気
グリーンゾーン	+	+	+	+	+
イエローゾーン	-	-	-	-	-
レッドゾーン	-	-	-	-	-

感染対応時の室圧・空調設備イメージ

日常的な感染対策の事例	
室内環境	適正な室圧管理 / 換気ファンウェイ化 / 自然換気の促進
非接触と自動化	自動水洗・自動ドア採用 / EV等 非接触ボタン採用
非接触	セミオープンカウンター採用
衛生管理	清掃しやすい内装 / 抗ウイルス性仕様の材料採用
	水はねの少ない手洗い・トイレ採用 / PPE・消毒液の設置

工程表	2025(R7)年				2026(R8)年								
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
0. 全体工程	基本設計(10ヶ月) 実施設計(12ヶ月)												
	② 与条件 ・敷地測量 ・スケジュール ・与条件・法規制 ・弊社実績事例の見学会 ② ブロックプラン ・配置、ボリューム 断面構成検討 ・ブロックプラン ・構造形式検討 ・設備方式検討 ② 詳細計画・総合化 ・平面図、立面図、断面図 ・機器レイアウト図 ・構造架構、設備ルート ・工事費概算 ② まとめ ・工事費概算 ・基本設計 ・まとめ												
1. 幹部会(方針決定)	③ ヒアリング① ③ ヒアリング② ③ ヒアリング③ ③ ヒアリング④												
2. プロジェクト会議(部門間調整)	③ ① 概算 ③ ② 概算 ③ ③ 精概算												
3. 部門ヒアリング(部門ニーズ把握)	③ ① 概算 ③ ② 概算 ③ ③ 精概算												
4. 事務局会議(発注者・運営者窓口)	③ ① 概算 ③ ② 概算 ③ ③ 精概算												
5. コスト管理	③ ① 概算 ③ ② 概算 ③ ③ 精概算												

1. ご要望の反映 +αを提案
多くの関係者からのご要望を引出し、設計へ反映蓄積されたノウハウを活かし +αを提案 弊社実績事例の見学会も実施

2. 提案型でプロジェクトを主導
エビデンスに基づきメリット・デメリットを示した分かりやすい資料を提示 複数案の比較検討で最適解を導出

3. わかりやすく検討しやすい資料
わかりやすく、検討しやすい資料を提示 イメージを共有し確実に合意形成

4. エビデンスに基づいた設計
医療におけるEBMと同様、建築計画においてもエビデンス(客観的根拠)に基づいた設計を実践

5. 機能・コストのベストバランス
費用対効果を常に意識して設計 業務を進め、機能とコストのベストバランスを追求

■ 6階建て⇒4階建て(低層化)

- 1フロア2看護単位の病棟を2階から配置し、4階建て(2フロア減)に抑えることで、工期を短縮
- 4階建て(2フロア減)とすることで、2フロア分の共用部(廊下の一部、階段室、EVスペース、設備シャフト)面積が削減可能。延床面積の削減(25,400㎡⇒24,900㎡)により、建設コストの削減にも寄与

■ 免震層の工夫

- 球面すべり支承と鉄骨基礎梁を採用し、床付レベルを浅く設定。掘削土量と仮設排水手間を削減
- 免震層擁壁のPCa化で工期短縮

■ 鉄骨造+ロングスパン架構

- 工場で加工・製作が可能な鉄骨造を採用。現場作業効率を高め、工期を短縮。ロングスパン架構で柱・免振装置の数を削減、躯体工事を抑制

■ 建設工期を5ヶ月短縮

採用項目	内容	短縮工期
建物の低層化(6階⇒4階)	躯体工事の短縮	▲3.0ヶ月
鉄骨造 ロングスパン化	躯体工事の短縮	
基礎梁の鉄骨化	躯体工事の短縮 掘削土量の削減	▲0.5ヶ月
球面すべり支承	掘削土量の削減 地下水位上での工事	
免震層擁壁PCa化	擁壁工事の短縮	▲1.0ヶ月
鉄筋先付デッキ	鉄筋組立工程の短縮	▲0.5ヶ月
合計		▲5.0ヶ月